

いたかんネットの活動 10 年

マンション居住者の声を行政へ



佐々木としか氏

マンションの管理運営に関して、今までは「分譲であるから自主的に任せ」という考えがあったが、無関心度、非協力度は増加してきている。購入直後のマンション入居者への初期講座の必要性が叫ばれる所以である。そして、今回の大震災を経験して、さらに安心・安全なマンションを目指すには行政との協力も望ましい。

佐々木氏、豊田氏に今号では地域コミュニティの形成と、いたかんの今後の活動について、話し合っていた。

町会・自治会・管理組合の一本化を

先般、区議会事務局・会議室にて「いたかんネット」副会長豊田芳夫氏は板橋区議会議員佐々木としか氏と会談した。日頃、豊田氏とは趣味を通して親交のある佐々木議員だが、多忙な時間を割いて話し合いの機会を作り出してくれた。

豊田氏は設立以来 10 年を経た「板橋マンション管理組合ネットワーク」(会長：成島圭子)の活動や今後の取り組みについての報告をした。

佐々木議員は板橋区議会議員歴 8 期の重鎮であり、従来から積極的にマンション問題について本会議等で質問を展開してきた実績がある。(現在板橋区住宅審議会委員の要職にある)

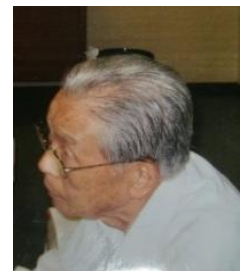
より充実した活動を目指して

佐々木議員は「マンション管理組合のネット

ワーク化は未整備であり、町会・自治会・管理組合が一体化できるコミュニティの形成の必要性が大となってきている」と述べ、豊田氏と共通した考えであった。特に東北大震災以後は防災意識の高まりもあり、新しい〈地域社会〉の形成が課題である。

「いたかんネット」活動 10 年を節目として、より充実した交流会・講演会・相談会(電話、ネット)連続座談会等の開催を、会長はじめ理事全員で意欲的に取り組んでいることを豊田氏は強調した。

さらに、平成 24 年 11 月 11 日に開催された「理事長等連絡会議」を次回以降も開催し“行政に提言できるような成果を残せる場としたい”との展望を語った。



豊田芳夫氏

知っておきたいマンション知識



回転備蓄

災害による被害を最小限に抑えるには、**自助**(自分の身を自分の努力によって守る)、**共助**(地域や近隣の人が互いに協力しあう)等が必要です。

回転備蓄ということばをご存じですか？

災害時の備えとして、食べたいものを多めにストックしながら、食べたら追加するトコロテン式の「回転備蓄」がおすすめ、だそうです。また、水が確保できればコメはたいていどこの家庭でもある

ので、(冷蔵庫には肉や野菜もあるかも)非常時の食料備蓄は必要ない、という意見もあります(ただし、家に留まる場合)。

つまり、非常食は回転備蓄のコメがあれば何とかなる、ということでしょうか。

《被災時クッキング》という講座も見かけますね。

いずれにしろ、災害発生後 3 日間は**公助**(公的機関によって提供される援助)は期待できないので、“こんな方法なら自分でもできる”と思われた方は、試してみてもは如何でしょうか。(NK)